

血液内科:愛媛県立中央病院年報(2021年診療業務報告書)

当科では、主に悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、白血病の患者さんに対して、安全で満足度の高い外来化学療法を行っていますが、昨今の病院全体の化学療法の件数増加、それによる化学療法室の慢性的なベッド数不足もあり、外来化学療法加算の算定ができない皮下注射の化学療法については、2020年2月から中央処置室で血液内科医師が施行するようになりました。2021年は1,101件の皮下注射の化学療法を施行しています。

県内の血液疾患の患者さんは、なるべく地元で治療ができるように、以前より県立南宇和病院へ2か月に1回の診療支援に伺っていましたが、2020年11月からは、紹介の多い県立今治病院へ月2回の診療支援を開始しました。治療の必要な患者さんは迅速に中央病院で治療を行い、状態が落ち着いて南宇和や今治でも治療可能となれば、県立南宇和・今治病院で診療を行っていく体制を構築し、東予・南予地区で、患者さんの満足できる質の高い血液診療を提供できるよう心がけています。

■ 疾患別入院患者数

疾患名	2019	2020	2021
急性白血病	161	102	125
うちALL	33	20	26
骨髄異形成症候群	115	157	122
悪性リンパ腫	242	290	294
多発性骨髄腫	40	36	36
慢性骨髄性白血病	23	16	27
慢性リンパ性白血病	4	0	6
再生不良性貧血	6	4	1
その他	38	99	81
合計	629	704	692

■ 死亡症例数

	2019	2020	2021
症例数	16	18	18
うち剖検数	1	1	1

■ 初診患者数

疾患名	2019	2020	2021
急性白血病	39	27	20
うちALL	10	7	4
骨髄異形成症候群	41	46	18
悪性リンパ腫	109	108	89
多発性骨髄腫	23	13	11
慢性骨髄性白血病	9	7	11
慢性リンパ性白血病	3	4	4
再生不良性貧血	6	7	3
特発性血小板減少性紫斑病	19	14	12
その他	231	190	194
合計	480	416	362

■ 検査・治療件数

()小計、以下内訳

検査・治療名	2019	2020	2021
骨髄穿刺	539	480	380
骨髄生検	218	228	171
血液疾患による輸血療法	(23,469)	(26,122)	(17,107)
赤血球製剤	4,170	4,330	3,230
新鮮凍結血漿	658	792	822
濃厚血小板	18,610	20,990	13,050
自己血	31	20	5
血縁者間骨髄移植	2	2	1
非血縁者間骨髄移植	6	3	2
血縁末梢血細胞移植	4	3	3
非血縁末梢血細胞移植	0	1	1
自家末梢血幹細胞移植	9	10	4
臍帯血移植	10	13	6
うちハプロ移植	—	1	1
移植後外来(件数)	80	65	68
外来化学療法(総数)	1,898	2,084	2,158
外来化学療法(点滴)	—	1,219	1,057
外来化学療法(皮下注)	—	865	1,101
セカンドオピニオン(紹介数)	4	0	3
骨髄移植ドナー	12	9	4
うち非血縁	10	7	0
末梢血幹細胞移植ドナー	5	7	4
うち非血縁	1	2	0